

# 厄落としの会

去る1月27日(日)、毎年恒例となった厄落としの会が行なわれた。

午前中に総勢17名で行なわれた勝田神社での神事は時間に追われてドタバタしたもの何とか無事終わり、懇親会場である海潮園へと移動。中島会員の配慮により奥の広間で始まった懇親会では、オブサーバーとして迎えた奥森直前県会長に中央会を熱く語って頂いた。前厄である湯原委員長、本厄である武海副会長においては少しばかり弾けてもらい酒の席は盛り上がっていったのであった。

1年に1度、39~42才までの同世代の会員のみが集う厄落としの会、私の記憶が正しければ県内では他の青年経済団体には無い西部青年中央会ならではのオリジナル行事である。

今年出席出来なかった会員並びにこれからその年令となる会員においては、積極的に参加し同世代の連帯を深めてもらいたいものである。(広報：夏山裕一)



【後記】宴席半ばで結婚式へと向かった松浦会員。かなりやばそうだったが無事出席出来たのだろうか？

## 言わしてごしない Part 8

お酒を飲む席に参加することによって、人と人との出会いがスムーズにとり行われることがあると思います。その場では一対一、もしくはグループで話す機会があると思いますが、色々な人の癖がわかる場でもあります。からんでくる人、やたら説教をしたがる人、自慢話ばかりする人など様々な人と出会えます。こういった席に参加することにより、早く仲の良い友達・先輩・後輩ができるような気がします。

という僕ですが、新人会員の頃はこういった席が苦手です。いつも不参加と決め込んでいました。理由は簡単で、お酒が一滴も飲めないからです。最近では飲めませんと言うと強要されませんが、一昔前は場がしらけるとか、俺がつぐ酒は飲めんのかと言われ、苦痛以外の何物でもなかった時もありました。しかし、最近では飲めない僕でも参加しやすい環境が作られているように思います。

何故こんなことを今更のように書いているのか、「解ったことだろ。」と思われようでしょうがここで書かせていただきます。懇親会・二次会のあり方をどうのこうの言う前に、まず自分がこの会に何のために入会したのか、入会時壇上で自分が言ったことを考えれば自ずと答えは出てくると思います。誘われているうちが花だとよく言いますがそれを義務と感じるか自分のためと思うかは本人次第です。特に新しく入会した会員には、これから何年間の会の活動の中で例会・委員会だけでなくこういった席にもどンドン参加をして、自分を早く覚えてもらうことを勧めます。自分に欠けている事や、人の魅力などを発見できる場であって欲しいと思います。(Newカマーズ：高田孝志)

コピーをして名簿にお貼り下さい

**桐田 照生** AB型 代表

桐田塗装  
各種吹付・建築塗装全般請負業  
〒683-0004 米子市上福原2丁目4番70号  
TEL 0859-33-5681 FAX 0859-35-5857

H14.2入会 (推薦者) 若槻 加藤  
〈自宅〉米子市上福原2丁目4番70号  
〒683-0004 S.42.11.1 TEL 33-5681

【コメント】この度、西部青年中央会に入会させて頂きまして有難うございました。まだ入会してまもなく、分からない事ばかりでご迷惑をおかけする事があると思いますが、中央会の一員として頑張らせて頂きますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

## 訃報

去る平成14年2月9日(土)、経営委員会所属の入澤善也会員が亡くなりました。ここに深く哀悼の意を示すとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 3月役員会報告

3月定例役員会が平成14年3月1日(金)、米子食品会館に於て開催されました。当日の主な議題は、次の通りです。  
(1) 3、4、5月例会開催の件  
(2) 次年度副会長推薦の件  
(3) 新加入会員承認の件  
(4) その他  
※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

## 3月例会案内

とき 平成14年3月18日(月) 19:00~  
ところ ホテルサンルート米子  
演題 夢のある街づくりについて  
講師 鳥取県副知事 平井 伸治氏

## 天声学語

【そんなことしたら縁起が悪い。】  
結婚式は「大安」の日でなくてはいけない、葬式は「友引」の日にしないなど、何をやるにしても「六曜(ろくよう)」を気にしすぎるようなことはありませんか？  
「六曜」は古代中国にあった「小六壬(しょうろくじん)」という迷信や占いをもとに日本で作られた物です。  
わが国は、明治5年11月9日に「太政官布告」をもって、太陰暦(旧暦)を太陽暦(新暦)に改めました。この布告の中で「六曜などは、根拠のない全くの迷信もう想であり、正しい知識の開発を妨げるものである。これにとらわれることのないように。」と述べています。しかし、政府の一方的な布告だけで指導や啓発活動が行われなかったために、人々が太陰暦(旧暦)を使わなくなったり、「六曜」などの迷信にこだわるなくなるといふわけにはなかなかいきませんでした。  
科学的・医学的な理由も根拠もない「迷信や因習」にとらわれることなく、今一度自分自身で確かめ、正しく判断することを考えてみてはどうでしょうか？

# Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 岩田慎介 編集責任者 萬田寿夫 印刷所 東京印刷製

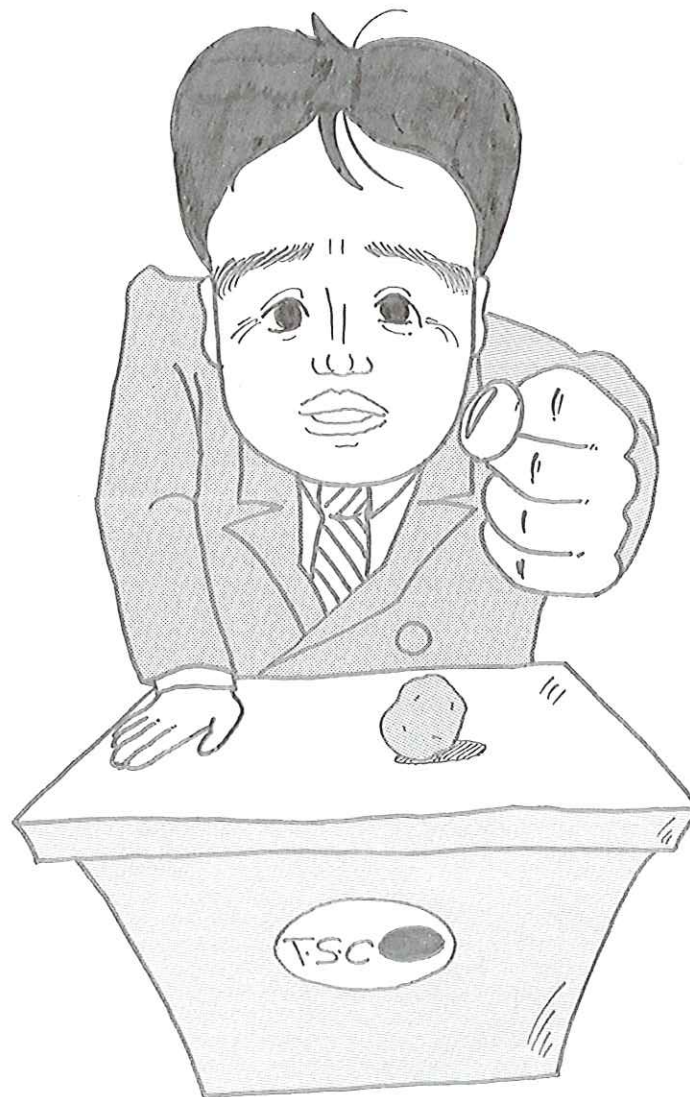
## 次年度会長決定

2月15日(金)、サンルート米子において臨時総会が開催され、岩田会長より推薦を受けた門脇浩二会員が満場一致で第28期会長として承認された。

門脇会員は承認後の挨拶で、「厳しい経済情勢の中ではあるが、伝統ある西部青年中央会を更なる飛躍をさせるために尽力していきたい。」と決意表明をされた。それは、長く西部青年中央会に所属し、今までに多くの貢献をされた門脇会員が、「次年度会長としてその活動の集大成をはかる」という思い溢れるものであった。

門脇会員は、平成3年7月に入会。在籍11年のベテラン会員で、平成10年度県出向理事、平成11年度・12年度副会長、平成13年度県出向監事を歴任。まさに次年度を託すことのできる「西部青年中央会を知る会員」である。

私達が時代の大きな変革時にいる中、次年度会長として西部青年中央会を導く門脇会員の手腕を期待するとともに、すべての会員が「門脇丸」を盛り上げていくことを期待したい。



尊敬する人  
西郷隆盛

趣味  
釣り

座右の銘  
勝負

家族構成  
父母・奥様・長男(高2)、  
次男(中1)、長女(小1)

所属企業  
有限会社べこ会・アンド・まるせい代表取締役

### 〈門脇浩二会員の略歴〉

- 昭和51年 米子商業高校 卒業
- 株式会社十美屋 入社
- 昭和60年 結婚
- 昭和61年 株式会社十美屋 退社
- 鳥取県農業大学 入・卒
- 前身のまるせいに入社
- 昭和63年 有限会社べこ会・アンド・まるせい 設立
- 平成3年 西部青年中央会 入会
- 平成8年 経営委員長
- 平成10年 県出向理事
- 平成11年 副会長
- 平成12年 副会長
- 平成13年 県出向監事

(広報：平野忠司・植田寿雄)



# 2月例会報告

2月15日(金)、ホテルサンルート米子にて経営委員会担当の2月例会が開催された。例会に先立ち、出席者全員で先日急逝された入澤善也会員に対する黙祷を行い、故人のご冥福をお祈りした。

岩田会長挨拶、新入会員パッチ授与に続き、臨時総会が開かれ次年度会長に門脇浩二会員が指名され、満場一致にて承認された。委員長タイムでは、桶村広報委員長が「社内の意識改革」について述べられた。

今月は「新世紀、原点への回帰。会社経営の課題と対策について」と題し、(株)山陰ビデオシステム代表取締役高橋孝之OB、(株)ダックス代表取締役大畑憲OB、(株)ライトスタッフ代表取締役宮廻裕和OB、(株)味屋コーポレーション取締役社長土井一朗直前会長をお迎えし、パネルディスカッションが行われた。「中央会が原動力。夢を大きく描いてやってきた。」(高橋氏)「こういう場面ではこの人に相談に行こうというのを決めていた。取り引きが無くて付き合えるのが中央会の仲間である。」(土井氏)と各氏より自己紹介と併せメッセージを頂いた。

以下、ディスカッションの中で各氏より頂いた我々にとって糧となる金言を紹介すると…。

## ベンチャーについて

「何よりも大切なのは、勇気・決断力・実行力。ベンチャーとは冒険に挑む恐怖心や緊張感といった人間が本来持っている本能の様なもの。」(高橋氏)

ベンチャーには感性を必要とするのでは？

「信条として、自社が大きくなるとか自分の成功ではなく、お客さんに喜んでもらうこと。また、値段が高いなら高い理由を言う。安いなら何故安いのかキチンと説明するという事に心掛けている。」(宮廻氏)

## リスクマネジメントについての質問

「まず相当な準備というシュミレーションが必要。そしてこれからはプレゼンテーションという説得力が絶対に必要である。」(高橋氏)

## 稲盛和夫氏の盛和塾について

「稲盛氏より、どの山に登りたいんや?と質問され、目標設定の高さや志の高さを痛感した。」(大畑氏)

## 人材教育・自己管理について

「人生は短いということの認識。自分で動いて、自分を変え、推進できる30代・40代を本当に大事にしているか今一度考えてみる。そして勝ちグセをつけるのは感動の大きさとその回数を増やすことである。」(土井氏)

## ご自身の原点・ターニングポイントは?

「病気で25、6才の頃に死というものに直面し、もし手術が上手くいったら自分は他人の2倍、3倍働くことを心に誓った。」(高橋氏)  
「相手が返事をしなくても挨拶しろと教えてくれた母、お客さんが喜んでくれることを考え自分についてきてくれる社員を大切にしろと教えてくれた先輩社長、そして稲盛和夫氏との出会い。」(大畑氏)



「一番影響を受けたのは中央会。30代に2回目の青春が中央会にあった。中央会は勉強の場であり情報収集の場である。」(宮廻氏)

「24才から約10年間何をやっても上手くいかなかった。働く人達のモラルの低さ、これは経営者の責任である。食の産業でもこれを変え、実現できるのだという熱き思いをもって臨んだ。今の考えに到達したのは34、5才の時である。」(土井氏)

最後に高橋氏より締め括りとして「短い人生だから喜びが大事。精一杯生きて喜びを噛みしめる。中途半端では喜びも無い。家庭・企業・地域社会と多方面にわたり我々はやらなければならないことが沢山ある。中央会の中で皆が語り合い地域社会に貢献していこう!」という言葉で結ばれた。

改めて中央会には素晴らしい先輩、ありがたい仲間が存在するのだと確認できる有意義な時間となり、明日からの各々の仕事の局面で活かされるであろう。得るものの多き例会となった。(広報：青園和典)

# 温故知新

今回は、第14期会長の松本哲哉OBにお話を伺いました。

(入会当時の青年中央会の印象はいかがでしたか?)

いやあ、大人の会だなと感じたもんな。親睦が第一で、いろんな面でいい勉強をさせてもらったな。あれがこうだよ、これがこうだよという教え方じゃなく、先輩の振りを見ていろんなことを学んでいく姿勢。口ではいろいろ教育できるが、行動で示せるというのは先輩方もたいしたものとおもう。この会で大人にもらったわな。

(会長当時に昭和天皇御製記念碑建立がありましたか?)

あれは僕の2期前くらいから話が出て、政治的な絡みがどうしても出るんでその時はなかなかできなかった。けど、ちょうど体調を悪くされたころにいろいろお願いされてやることになったんだよ。たまたま僕のときにやったというだけで2期前くらいの先輩方がかなり方々に動かれ、行政も好意的だったし、会員全員がそれぞれの分野で協力してくれて手作りの立派な御製碑ができたな。あれが昭和天皇の最後の御製碑だと思う。

(現役会員に一言お願いします。)

人は財産だけじゃなく、すごい財産を持っているとおもう。OBもたくさんおられるが、中央会を大事にしておられるとおもう。現役会員が来れば必ず会って話を聞いて、励まし、協力してくれる。人という財産を利用していくということ、利用するだけではなく同じことを今の会に将来的にお返ししていかないけんわな。いいものはどんどん吸収し、自分もそれなりに成長して、それを同僚なり新しい会員に分け与えていくことが大事じゃないのかな。(広報：南 順三)



※中央会の歴史の一端を垣間見ることのできた南会員渾身の取材でした。しかし、広報委員会の内々の事情で掲載が一ヶ月遅れとなりましたこと、松本OBには深くお詫びいたします。申し訳ありませんでした。

# 2月度委員会報告

## きずな委員会

平成14年2月13日(水) 於：ホールサムインかいけ 出席者/10名  
内容/講師：(株)シー・アンド・エヌ 代表取締役 遠藤雅久氏 (第16期青年中央会ご卒会)

講師：インプレスサ米子 ルート431店 (有限会社ウェブ・サーブ) 営業チーフ 石黒亜貴子氏

内容：「男女共同参画について」

## 情報メディア委員会

平成14年2月8日(金) 於：(株)インサイト 出席者/11名  
内容/①「TSCサイト再構築プロジェクト」について協議

## モラル委員会

平成14年2月8日(金) 於：米子食品会館 出席者/11名  
内容/講師講演

講師：元BSSアナウンサーあだちしげお氏  
先生の座右の銘「心」・「一座建立」・「婦家安座」より人間の原点、モラルマナーを学ぶ。

## 経営委員会

平成14年2月6日(水) 於：米子食品会館 出席者/12名  
内容/①2月担当例会の打合せ

## Newカマーズ委員会

平成14年2月7日(木) 於：米子食品会館 出席者/15名  
内容/講師講演：阿部信行OB・角田茂樹OB

## 政治行政委員会

平成14年2月5日(火) 於：ホールサムインかいけ 出席者/9名  
内容/講師講演

演題：魅力あるまちづくりのために・市町村合併

講師：米子市企画部企画課 課長 皆尾雅人(みなおまこと)氏

## 広報委員会

平成14年2月4日(月) 於：デリラウンジ夢 出席者/13名  
内容/①ハンサム3月号について

②知的所有権小冊子発行について協議

東京印刷(株)担当者をお招きし、小冊子発行においてのアドバイス、注意事項などをうかがう。

## 総務委員会

平成14年2月6日(水) 於：ホールサムインかいけ 出席者/13名  
内容/①「新入会員入会審査基準」について検討

②4月例会の打合せ

# 鳥取県中小企業青年中央会 委員長交流会開催

平成14年2月2日(土) 県の交流事業として委員長交流会が東伯郡東郷町「水明荘」にて開催された。東・中・西の各委員会を代表し、委員長・副委員長等総勢17名の参加者があり、「明日の青年中央会を語りあう」と題して意見交換を行った。

冒頭、急速やむにやまれぬ事情で開会に間に合わなかった古南県会長に代わり俊島副会長より、「今年度も半年が過ぎ、行ってきた活動のこと、問題点などを議論し合い、明日の青年中央会について語り合おう」と挨拶があった。

まず、参加した各委員会の代表者が自己紹介と現在までの委員会活動の現状と展望をひとりずつ発表した。その後、3つのグループに分かれ、グループミーティングを行ったが、予定時間が大幅にずれ込む程、各グループとも白熱した議論を交わし合っていた。

交流会は懇親会の場へと移り、大津副会長の乾杯の発声により幕開け。終始和やかに、そして交流会同様の白熱した議論が展開されていった。むろんアルコールも入り、議論の内容は「明日の中央会を語りあう」から各々の業種・職場の話、経済の話、趣味・特技の話など様々に人となりのふれあえる懇親会となった。

最後に古南県会長より「本日、大変よい交流会ができた。この日の活力を明日に向けて発揮してほしい。」と挨拶があり、懇親会を終えた。

その後は、ネオンの中に消えていき、楽しい夜を明かした会員の姿があったとき。(広報：桶村清子)



# バジタフル俊和の 突撃! 隣の委員会 モラル委員会の巻

2月のモラル委員会は、食品会館にあだちしげお氏を迎えて、お話を伺った。まずは、民謡のBGMに乗って「ばんじました! (こんばんわの意)と元気よく登場。現在担当の「ばんじました、ふるさとさん」そのままの雰囲気、会員たちは引き込まれる。

話は生い立ちから(意外にも神戸の出身である)山陰各地の方言の違いや山陰放送の歴史と入社時からの仕事(意外にもアナウンサーではなく技術者である)、放送賞の受賞、失敗談まで幅広い。なかでも、各地を回って土地の人に話を聞く時に標準語よりも方言の方が聞き出しやすかったことや話を聞くなかで自身も地方地方の言葉も覚え、違いを覚えることで個性的な「あだちしげおの山陰弁」を作り出していったことなどは興味深かった。

ところどころ独特の言葉遣いと早口でわからないところもあったが、そのあだち氏でさえ、わからないほどの訛りが昭和30年代には山陰各地に残っていたという。その話のおもしろさ、イントネーションの微妙な違いをここに表記することができないのは、つくづく残念である。身振り手振りを交えた漫談のような、ひとり芝居のような話し方は、その人柄がにじみ出て、たしかに部屋の温度まで押し上げていた。

唯一無二の山陰弁を操り、うたを歌い、ハーモニカまで吹くあだち氏の姿は、仕事をはじめなんでも楽しんでいるように見えた。家庭を大事にする父親の顔や、地域に根差す住民の顔、和を大切にしている企業人としての顔、そのどの顔も忘れ去られようとしている各地の方言と共に、人間としてのモラルの重要性を体現している。

「小沢昭一的ところ」では、米子に来た小沢氏やスタッフと意気投合、一緒に飲み歩き、実際の放送の中では「こんなバカばかりにはいないよバカー」と言われたらしい。それがきっかけで、全国区にまでなったあだち氏の声は、日本中の山陰出身者はもちろん、氏の放送を一度でも聞いた人たちを今日も元気づけているのだろう。「あだちしげおの山陰弁」の今後ますますの普及と、あだち氏の今後ますますの健康を祈り、取材の許可をいただいた潮委員長に感謝しつつ「隣の委員会」をあとにした。

(広報：岩崎俊和)

